



実は、この出張記を書き始めた現在は試験当日の夜である。今までは絶対にそのような行為はしなかった。なぜなら、当日の試験に出た所をできるだけ記録しておくことと、それを踏まえた次回の対策で頭がいっぱいで、とてもこのような不真面目な日記などを書いている精神的な余裕がないためである。

そう書き始めたからには自信があるのだろうと懸命なる読者の方々は予想するだろう。その通りである。高い確率で合格できたと思っている。もちろん既に試験後にやることは全てやり終えたのだが精神的に余裕があることで書き始めることにした。

また、私は冗談などをこのページに書いていないつもりであるが、一部の方々にはお笑いネタだと思われるところもあったらしい。今回はシリアスに進めるので、お笑いを期待されても今回は困るということ伝えておきたい。

皆さんにもう一度言うておきたい。

MDC (Motivation Dedication Consistency)

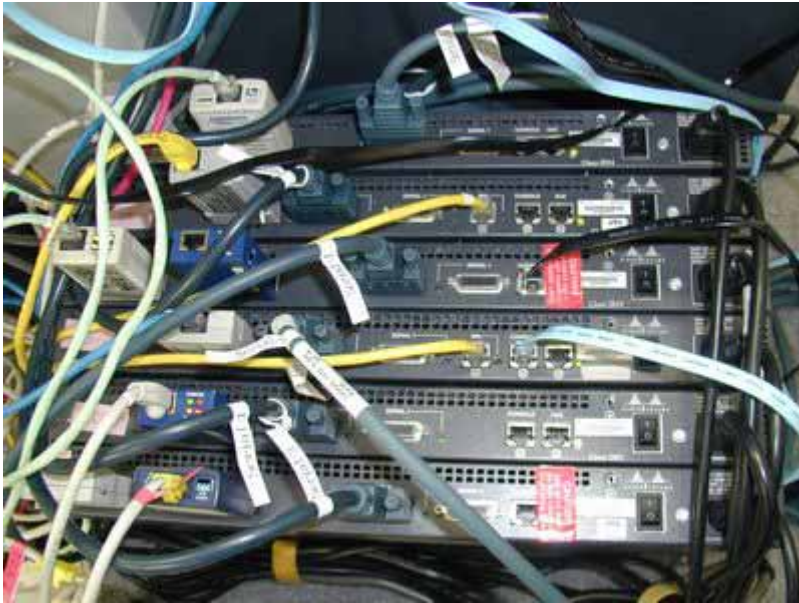
- Motivation : 言うまでもなくモチベーション
- Dedication : 献身とでも訳せばいいだろうか
- Consistency : 持続すること

決してあきらめずに自分の目標に向かって進みつづければ人生は開けるものだと思っている。

今回、会社の規定の回数で合格できなかった私は試験費用や渡航費など全て自己負担である。45万円くらいになるだろうか？

その分、気合が入ったと言えはそういえるかもしれないが、プレッシャーは計り知れないものがあったのは事実である。

< 前回の試験を終えて >



4月16日(金)に帰国して、早速土日から勉強に入った。だが、実は IP-Telephony 関連の Specialization の更新が迫っているのだ。帰国してから一週間後が更新の期限である。更新試験自体、とても難しいもので本来は合格できないような試験である。それを2つも抱えてしまっていて、本当に寝るヒマの無い一週間を過ごした。体はボロボロになったが無事に更新できた。

また、O 事業部長からお願いされている CCIE VOICE にも挑戦しないといけないので、まず学科試験に合格しなければならない。CCIE の学科試験というのは皆さんご存知だろうか。決して簡単に通るものではなく、学科試験では、数ある IT 関連の中でも最難関であると思う。それを、つい

「4月の末までに通りますから」

などと絶対に無理なことを約束してしまったもんだから、大変なことになってしまった。

ゴールデンウィークを全て会社で過ごし、勉強に没頭した。もちろん Security も忘れることができず、今年のゴールデンウィークはとてもきつかった。結果的に、4月中の CCIE VOICE 学科試験の合格はやはりできなかったが、何とかゴールデンウィーク中に合格できた。ふう。

CCIE VOICE のラボ試験は世界で二箇所しかやっていない。サンノゼとベルギーだ。もちろんサンノゼに行きたい。基本的にヨーロッパは遠いし、行った事がないから旅行でもない限り行きたくない。試験に行くのに不安要素を抱えて行きたくないのだ。元々、私は旅行好きではない。むしろ、嫌いだ。

が、サンノゼはラボ試験の予約が難しく、結局7月の中旬にベルギーの予約を取ることができた。これもまた大変だなあ。

さて、Secutrity を先に通らないと2つもラボの勉強を同時進行することは不可能だ。次回の Security ラボの予約を6/1に入れた私は猛烈に勉強するつもりであった。

が、何と会社支給のPCが壊れたのである。正確に言うと、止まる時もあれば動き時もあり、なかなか判断が難しい。代替りのPCがないため修理に出すこともできない。

頻繁に止まるため、そのたびにそこまで勉強した成果が消えてしまい、本当に嫌になった。モチベーションが下がっていくのが自分でも分かる。試験に行くのを止めようかと思ったほどだ。しかし、ここで受かっておかないとVOICEのラボへの影響が出てしまうだろう。くじけそうになる気持ちを必死に支えながら頑張った。その間にWindowsの再インストールを2度も行うなど時間の労費も甚だしかった。

程なくして、O事業部長が代替りのPCを用意してくれて何とか戦う体制は再構築できた。本当に感謝しなければならない。データの移行などに数日を要したが、もう泣き言を言っている場合ではない。オレはやるぞ！

ありきたりの言い方になるが、ここまでしてもらって引き下がっては男とは言えないだろう。全力を尽くすことを心に誓った。

< 5月30日(日) >

21:00 成田発で出発予定であるのはいつものことであるが、今日は日曜日である。福岡から羽田に飛んで、そこから直接成田に向かうことにした。

ここで、またJALがやってくれた。何度も言って恐縮であるが私はJALグローバルクラブの会員である。様々な特典があるが、預けた荷物の優先取り扱いはそのひとつである。福岡でチェックインの際に

「国内線でもプライオリティタグを付けてもらえるんですが？」

と聞くと、「もちろんです」とのことので安心していった。

飛行機の中では爆睡である。移動中にあまり居眠りをしない事で定評のあった私であるが、この一ヶ月は平均睡眠時間が3時間を切っていたため移動中には寝てしまうようになっていた。あっという間に羽田到着。

国内線で荷物を預けたのは初めてだと記憶している。国際線ではほとんど毎回預けるのだが、国内線ではいかに早く次の目的地に行くのかがキーポイントになるので、大きな荷物は持たないようにしている。

バゲージクレームで、荷物を待っていると一般庶民が少しでも早く荷物を受け取ろうと、荷物が出てくる辺りに集まってくる。おいおい、お前らの荷物はオレらの荷物の後に出てくるんだよ。邪魔だなあ、、、とか思っていたらいつまでたっても私のスーツケースが出てこない。あれ？ 何かの手違い？

ようやく最後くらいになってやっと出てきた。なんとプライオリティタグが付いていない！

JAL の野郎、ふざけやがって！

係りのおねえさんでは埒があかないので、グローバル事務局に電話しようとしたが日曜日はお休み。成田のエグゼクティブカウンターで文句を言いまくってやる！

羽田からはリムジンバスで移動。約一時間で到着である。ちなみに私は予約をしていたので問題なく乗れたが、満席のため、予約を持っていない人はかなり遅いバスにしか乗れないようであった。

さて、成田でチェックインの際にファーストタグの付け忘れの件について説明を求めることにした。早速マネージャが出てきて謝罪してくるが、冗談ではない。私は飛行機での移動を少しでもスムーズに快適に行うためにわざわざ高い会員料金を払っている。それが履行されなかったのだから怒って当然である。機内食の件の時から何度もオレにだけこのような不幸な出来事が起こるのか理解ができない。

私は以下の2点についてお願いをした。

1 . 今回、あらかじめ規定されたサービスを受けなかったことを謝罪で済ます気はない。どのような社内コストの管理がされているか知らないが、お金を返して欲しい。

2 . JAL は大好きであるが、このようなことが続けば考え直さざるを得ない。ANA グループに全てのステータスがそのまま移行できればすぐにでもグローバル会員を退会したいので、JAL から ANA グループにステータスの移行を推薦して欲しい

回答は日本に帰ってからもらうことにしている。

それ以外は特に問題なく出国手続きを済ませてラウンジで勉強することにした。



おや？

イーサネットポートがあるので聞いてみると使えそうな感じである。VPN3000 クライアントにも対応しているぞ。これはいい。と思ったが、どうもサービスが停止しているようだ。DHCP でアドレス取得でき、ポータルページまで行くのにその先の認証に進まない。こんなのオレが設定すれば5分でやってしまうぞ。ラウンジのおねえさんに聞いてみたが、当然のように要領を得ない。あ -、残念。あきらめてダイヤルアップすることにした。

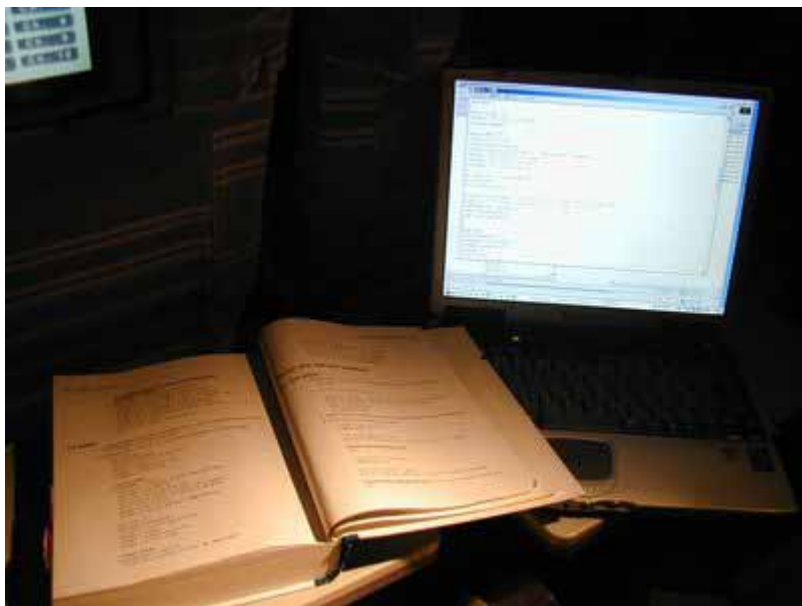


ここでラウンジのニューアイテムを発見。おにぎりが置いてあるではないか。基本的に飲み物とおつまみ系しか置いていないラウンジであるが、このおにぎりはいいぞ。が、機内食もあるのであまり食べても仕方ない。

出発に際して気がかりなことがある。ニュルブルクリンクで行われているドイツ GP で佐藤琢磨が予選 2 位であった。決勝はどうだろうか。機内では情報の収集の方法がないのでシドニーについたらすぐに PC で確認しなければならない。

<機内にて>

さて、搭乗開始。今回は自費なので当然のようにエコノミークラスである。その中でも少しでも良いシートを確保しようと何とか EXIT の通路側で、しかも隣を全てブロックできている席を用意してもらった。こういうことは感謝しなければならない。



今回は映画など少しも見ずにかなり遅くまで機内に持ち込んだ資料で勉強していた。ふと、そこにキャビンスーパーバイザーである亀尾さん（男性）という方が挨拶に来た。JAL に乗れば必ず誰かが挨拶にくるのでそのこと自体は珍しいことではなく、

「何でしょうか。」

って感じで対応したのだが、何と約一年前の機内食を忘れた件について話を聞きつけてわざわざ謝罪に来てくれたのである。とても温厚な方で、私の意見をきちんと聞いてくれ、その事に関するわだかまりすら消えて行く思いがした。

また、一ヵ月後にベルギーに JAL 便で行く予定があることを告げると、丁寧にも JAL 監修のベネルクス三国のガイドを持って来てくれた。

「元々、自分はアムステルダム線の担当でして、つい先日もフライトしてきたばかりなので持ってないかと思ってカバンの中を探したら、一冊だけもってました。是非お持ち下さい。」

と、とてもとても丁寧な対応であった。（ベルギー直行便はないのでアムステルダム経由である）

さすが、JALのキャビンアテンダントのチーフだけあると感心した。こういう方に担当されれば長時間のフライトもかなり楽になるだろう。

さらに、着陸前に亀尾さんが再度やってきて、何かな？ と思えば、紙袋を私に差し出して

「寝酒にでもお飲みください。」

と、小さな瓶ではあるが洋酒や日本酒を取り混ぜて7～8本ほどくれたのである。私は実はあまり酒を飲まないのに、酒をもらった事自体はそんなに嬉しいことではないのだが、何よりも心遣いが嬉しくて、私も丁寧に礼を言った。



朝までかなりの勉強ができた。PCが壊れて以来、ずっと勉強不足の感が否めなかったが直前で良い勉強ができて精神的にかなり楽になった。もしかしたら合格できるかも？ という良い雰囲気になってきた。

< 5月31日(月) >

シドニー到着。入国手続きはいつもと同じである。さとうのご飯の申告をしたが、特に荷物を開けられることもなく通過できた。検疫手続所の写真を撮っておこうとデジカメを構えると係りの人に怒られた。まあ、当然だろうか。

空港からホテルは、いつもであればタクシーである。しかし、自費での移動ということで少しでも経費を抑えるために地下鉄で移動することにした。スーツケースの重量は35キロくらいあるので移動も大変なのだが背に腹は変えられないという事だ。



地下鉄乗り場まで約10分くらいかかるだろう。基本的に治安の良いシドニーなので特に問題もなく乗り場に到着。切符を買おうとするが、自動券売機では良くわからない。私はこれでもIT関連会社の社員であるのだが、その私を持ってしても行き先であるChatswoodへの切符の買い方がわからなかった。で、窓口で購入し、Chatswoodまでの行き方も同時に尋ねた。Centralという駅で乗り換えが必要であること、19番乗り場で待つこと、などを教えてもらった。



空港からの交通機関というと、始発なので特に混雑はしていないという、全く勝手な幻想を持っていたが、なんとことInternationalという駅は通勤ルートの途中に位置しており、到着する時点で既に満員列車である。そこに35キロのスーツケースを抱えて乗り込むのは本当に大変であった。じっと我慢してCentral到着。ホームを移動するが腕力に自信のある私でもこのスーツケースを持って階段の昇り降りは至難の業であった。こんな苦勞して、自費で受験しに来て、耐えがたいプレッシャーの中で試験に臨まないといけな。MDCの精神を信奉する私でも気が滅入りそうである。



何とか乗り換えて Chatswood に向かう。途中、大きな橋（確かハーバブリッジと呼ばれている）を渡るが、その橋の上からオペラハウスを臨むことができる。デジカメで写真を撮りたいが、なにぶん満員なのでデジカメを取り出す余裕もなく、読者の皆さんには本当に申し訳ない。

International 駅を出て、あわせて40分くらいで、無事 Chatswood に到着。いつものホテルにチェックインすることにする。

私は 235AU ドルの部屋を予約している。日本円で2万円くらいである。会社のお金だったので気にもせず宿泊していたが自腹ではあまりにも高額である。

「このホテルはシスコシステムズが Recommend したホテルだ。私はシスコの試験に来ている。Prease discount! 」

としつこく食い下がると 195AU ドルにまけてくれた。やればできるじゃないか。ホテルにフロントで価格交渉をするのもどうかと思うが、これで2泊で 6000 円程度浮いたことになる。さらにフロントマンは

「あなたが試験でいい成績を収められるように祈っている。頑張ってください。」

と励まされもした。とても好感の持てる対応である。

部屋はいつものように生活設備一式を備えている。とても快適である。いつも言うことであるが、私はシドニー滞在中、2度しか外出をしない。水などを買いに行く時と、試験に出かける時である。早速、買出しに出る。いつもはセブンイレブンに行く私であるが今回はホテルの目の前の大きなショッピングセンターに行った。





日本食のスーパーがあることを知っていたからである。レトルトのカレーなどを購入できると最高なのであるが、残念ながらレトルトは置いていない。が、まあまあの物は手に入る。何点か買い物をしてホテルに戻る。



その後、メールチェックをしていったん寝ることにする。機内で勉強ばかりしていた私はあまり寝ていないのである。3時間ほど寝て、よし、勉強開始！

体調は万全である。今までの数度の受験渡航では、満足な体調で試験を受けたことがない。私はそんなにデリケートな人間ではないのであるが、頭痛持ちなのである。ホテルでは空調の管理など難しく、いつも寝慣れている布団ではないため、つい風邪をひいたような体調になってしまう。試験当日の朝に薬を飲むことはできず（ぼーとなるため）、苦しい思いで試験に挑んできた。

今回は、前回の試験から戻ってきて以来、ずっと最悪の体調であったが、奇跡的に成田に着いた頃から体調が回復傾向になり、いまや万全である。勉強もとても捗るし、何よりも前向きな気分が高まってくる。

CCIE R&S に合格した際に「神が降りてきた」と感じた私であるが（過去の出張記参照）本当にまた神が降りてきているように思う。

余談ではあるが、私の学生時代の話をしてしよう。当時、原理研究会なる名前の宗教団体（？）があって、同じ大学の学生も加盟しているようでキャンパス内で時々

「あなたは神の存在を信じますか？」

などと話し掛けられてくるので困っていた。こちらがひとりの時を狙ってやってくるので、ひとりではなかなか気の利いた対応ができずにいた。ある時、数人の友人と一緒にキャンパスを歩いていた私は明らかに原理研究会と思われる人物を発見し、話し掛けることにした。

こちらから話し掛けるなどということはほとんどないので、先方はぎょっとしていたが、すぐに

「あなたは神の存在を信じますか？」

と聞いてきたので、そこで

「私が神です。だからあなたは私の僕（しもべ）です。」

などと言うと、むきになって

「いったい、何の神ですか？」

と食い下がってきたので

「交通の神です」

などとからかってあげた。彼らは今ごろどのような生活をしているのであろうか。

晩御飯はいつも部屋で食べることにしている。今回は持ち込んだ「さとうのご飯」にのりたまのふりかけにチキンラーメンである。皆さんはどのように想像しているのかどうか知らないが、いつもこんなものを食べているのである。遊びではないことはご理解頂きたい。



ひと通り勉強し、夜の12時には寝ることにした。朝の6時には起きて直前の勉強をしたいので、最低でも6時間の睡眠を確保しておきたいからである。

ちなみに海外のホテルでは、バスタブがあってもとても浅くて日本人のように肩までつかって疲れを取ろうとする民族には適さないことが多い。オーストラリアもそうである。お風呂はやはり、たっぷりのお湯につかりながら入りたいものである。

昔、テレビで温泉の中継をやっていた。温泉に入っているじじいを撮っていたのであるが、突然、じじいがお湯につかったまま、体を一回転させた。じじい自身もとても不思議そうな顔をしていたのであるが、何でじじいが回転したのか？真相は、カメラマンが

「(カメラが)回った、回った！」

と叫んだのを、自分に対する指示と受け取ったようである。そんな指示を出すわけないだろ！

ここで、私が海外出張の際に持ち込んでいる数々のグッズについて紹介しておこう。



入浴剤：少しでも日本気分を味わうためである



まくら：意外にも神経質な私は、まくらが違うと寝付けない。



トラベルウォッシュレット：以前この会社に勤務していた。。



スリッパ：無いと困りますよ



目覚し時計：視察出張などではなく、試験なので遅刻厳禁。2個持ち込み、携帯でもバックアップ。



さとうのご飯：説明の余地はないだろう

< 6月1日(火)試験当日 >

予定通りに朝の6時起床。ホテルから試験会場であるシスコオーストラリアは窓から見える。もう、何度この風景を見ることはしたくない。



ご飯に永谷園のお茶漬けを食べる。相変わらず質素な食事だ。試験開始まで2時間半。頭の回転が最高に達するのにちょうど良い時間だ。最終チェックをして8時過ぎに試験会場に向かう。

受け付けを済ませると、既に他の受験者が2名ほど来ている。インドネシアとマレーシアから来たとのこと。さらに2名があとから来て、私を含めて全部で6名だ。ただし、Securityは私だけである。いつものプロクタが現れ挨拶して試験開始。

頭の回転は最高である。3年前にR&Sに合格した際と同じ感覚である。

私はバリバリ伝説のグンのファンである。彼がCB750FBに乗っていたから同じCBに乗り、彼がレースを始めたから私も始めた。彼が鈴鹿4時間耐久に出場した際のセリフに

「全身の感性が研ぎ澄まされていくのがわかる。誰にも負ける気がしない。」

とあったが、まさにそういう感覚である。千載一遇のチャンス。これを逃すことはしたくない。また、オレに神が降りてきてくれた。今日、オレは絶対に勝ってやる。今日のオレは絶対に負けない。ただし、オレは交通の神である。

途中、昼食を挟んだが、研ぎ澄まされた感性が鈍ることはない。入魂のconfigを叩き込んでいく。

普段、CCIEラボ試験で時間を余らせるヤツは聞いたことがない。以前も同じ会社に所属し現在も同僚であるNさんが3時間余らせたという伝説を打ち立てたが、正直、私は今回8時間の試験で、実に4時間を余らせた。完勝である。何度も見直しを行った。どうしてもわからない問題はあるのだが、その失点を考えても合格に届いている気がする。

8時間が経過しタイムアップ。もう来ることは無いだろう。プロクタと堅い握手をした。私の晴れ晴れ

とした表情から、私が合格した自信があると思ったのだろうか

「もう君にはここで会うことはないだろうしそう願っている。お疲れ様。」

とコメントをもらった。このプロクタにはお世話になった。彼はとてもフェアで、人種差別的な扱いもせず、私の質問には適切な回答をいつもくれた。感謝している。

ホテルに戻り、試験内容にすぐにまとめた。試験内容も完全に覚えている。もちろん試験は英語なのであるが、今回は細かい表現までチェックすることができた。

ほぼまとめ上げたところでガレッジ兵頭の記事を書いている次第である。

ただ、試験結果が届くまで不安である。できればシドニーを発つ前に結果を知りたい。合格の知らせを受けて、晴れ晴れとした気分で帰りの飛行機に乗りたいと願っているが、24時間以内に結果が届くことがわかっているだけで、現地滞在中に果たして結果は届くだろうか。

< 6月2日(水) >



飛行機は9時半発なので、朝の5時半から起きて準備をする。ホテルを6時に出て、地下鉄に向かう。まだ薄暗い。朝早いので電車はさほど混んでおらず、順調に International 駅に到着。



すぐにチェックイン手続きを行い一目散にラウンジに向かう。ここには無料で発信できる回線があるのでメールチェックできるのである。が、届いていない。ギリギリまでメール到着を待ったが結局メールは来なかった。

実は帰りの便はビジネスクラスにアップグレードしてもらった。シートリクエストに対して、私に対して失礼なことをやったため激しく抗議したのである。最後は

「仕方ないのでもういいです。ただ気分が悪いです。」

とだけ伝えたのであるが、キャビンアテンダントスーパーバイザである亀尾さん（シフト的に帰りの便も彼の担当であった）がそれを聞きつけて特別にアップグレードしてくれたのである。そういうことなら話を受けても良からう。先方の提案で話を収めることにした。なので、帰りは実に快適であった。



皆さんはご存知だろうか。ビジネスクラスの映画は全て VOD である。ビデオ・オン・デマンド、つまりいつでも見たい時に見たい映画を個人テレビに上映できるのである。まあ、あまり見たい映画がなかったのも、今回はどうでもいいのであるが。

帰りは CCIE VOICE ラボの勉強をしながら帰ったのであるが、あっという間に成田到着である。やはり快適に過ごすと早く着いたように感じるものである。

到着後、機外に出たところで携帯でメールチェック。合否を伝えるメールが届いているが、正確に言うと、そのメールにはリンクが張ってあってそこで自分の情報を入力し結果を見る形式であるため、携帯のメールからでは合否を確認することができない。入国審査後、手荷物を受け取り、PHS の電波が届くところまで来たところですかさず合否確認をすることにした。

が、何と PC のバッテリーが残り少ない。ピーピー言い出した。何とか切れなくてくれ！ と祈りながら確認。自信はあったが、ページが表示される時には手が震えた。あまりにも長い期間、ずっと集中して勉強した来たが、本当に苦しかった。それを思い出して、心臓が止まりそうだった。

「PASS」

の文字が見えた瞬間に、ああ、オレは勝ったんだ、とようやく安心することができた。交通の神にも、学問の神が舞い降りてくれたのである。

すぐに O 事業部長に電話をする。休暇を取っての渡航であったが、試験に行くことは伝えていた。無事に合格した事、本来であればもう少し早く取ればベストであったが勉強不足で達成できずに迷惑をかけてしまったこと、替わりの PC の手配で助けられたこと、について簡単に報告を行った。

ねぎらいの言葉は頂いたが、もし、ここで

「早く CCIE VOICE に合格してください。」

などと言おうものなら、ぶん殴ってやろうかと思っていたが、それは言われなかった。

本当に長い期間、様々な人たちの支援を頂いて合格することができた。この場を借りて感謝したい。自分だけの力ではないことはよくわかっているつもりである。

次の挑戦も既に始まっている。しばらくは、また土日を使っての勉強が続くだろう。が、挑戦するからには合格まで決してあきらめるつもりはない。

次なる戦いにも負けるつもりはない。私は負けず嫌いなのである。オレは決して負けない。